

港湾

徳島小松島港(赤石地区)

主要事業

港湾施設の整備

本県では、「効率的な物流体系」、「豊かで潤いに満ちた生活空間の形成」、「国土強靱化」等を目指し、港湾の計画的な施設整備を推進しています。

近年の「社会情勢の変化に伴う船舶の大型化やコンテナ貨物の増加」、「急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化」など、多様化・高度化する港湾への要請に対し、地域環境の保全に充分配慮しながら、港湾の特性と役割に応じた港湾空間の創造を目指しています。



万代中央ふ頭

海岸保全施設の整備

「南海トラフ巨大地震」の切迫性が増す中、徳島県では、甚大な津波被害の発生が懸念されています。

特に、津波の到達時間が短い県南部においては、避難に要する時間確保が急務となっています。

津波から生命や財産を守るため、「陸閘の自動閉鎖化」や「水門」の整備に着手しています。



陸閘の自動閉鎖化



水門の整備(イメージ)

徳島阿波おどり空港の整備

徳島阿波おどり空港では、航空機の損傷軽減と、人命のさらなる安全を確保するため、滑走路端安全区域(RESA)の整備に取り組んでいます。



徳島阿波おどり空港ターミナル

防災・老朽化対策

地震への対策が喫緊の課題である中、県民の安心・安全確保を実現するため、港湾施設の「老朽化対策」や「耐震機能強化」などに取り組むとともに、発災後の速やかな「救援」や「復興」を可能とするため、徳島県南部自動車道などの「緊急輸送道路」と連携した物資輸送経路の構築に努め、国土強靱化を推進しています。

物流機能の強化

徳島小松島港では、徳島南部自動車道と直結したことで「海の玄関口・マリニピア沖洲」、「空の玄関口・徳島阿波おどり空港」をつなぐ「陸・海・空の結節点」が誕生しました。

全国の「高規格道路ネットワーク」に直結された徳島小松島港を新たな四国のゲートウェイへと進化させるべく、「新たな賑わい」を生む交流施設の立地を目指しています。

また、徳島小松島港「赤石地区」では、コンテナターミナルとして、国際貿易拠点としての役割を担っています。

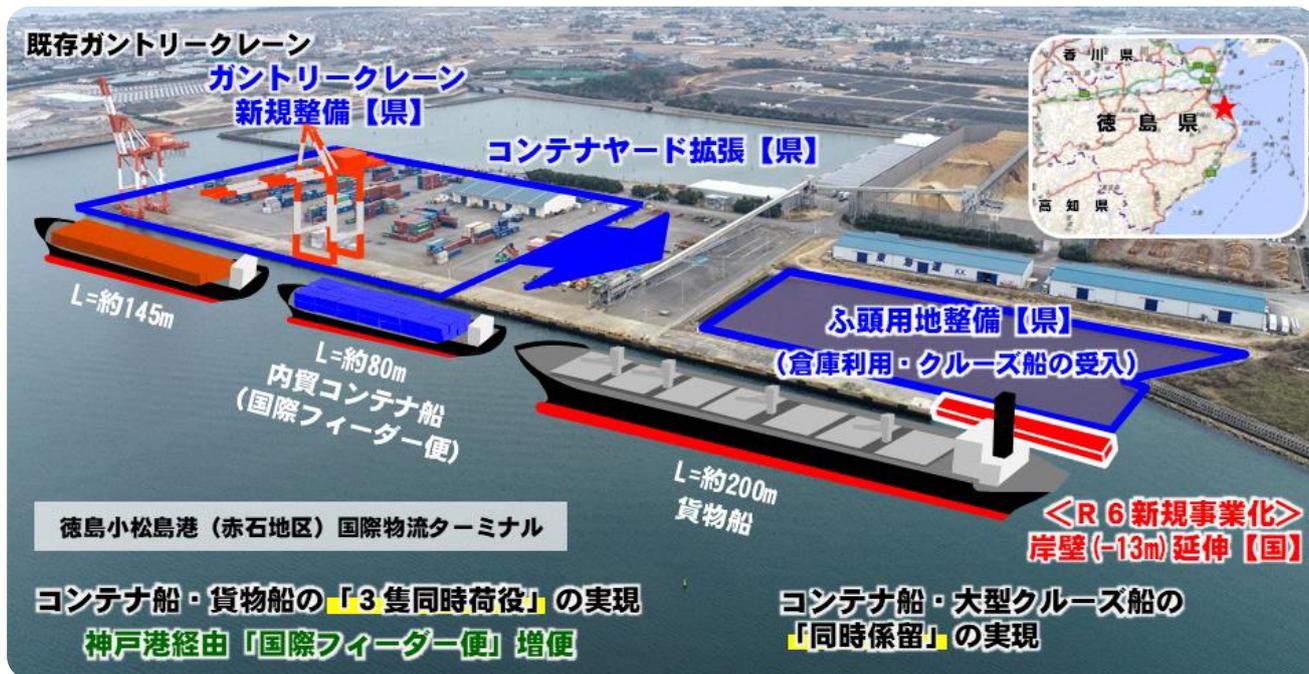
大型岸壁の一部延伸や荷役機械の増設のほか、ふ頭用地等を整備し、物流機能を向上させることで、地域の基幹産業の国際競争力強化を推進しています。

注目ポイント

徳島小松島港コンテナターミナル

本県の国際貿易拠点としての役割を担っている「徳島小松島港コンテナターミナル」は、1万5千トン級のコンテナ船が寄港可能であり、県内唯一のガントリークレーン(吊上荷重48.4t)を運用しています。また、コンテナを場内運搬するリーチスタッカーを3台保有しており、今後は「新規荷主の獲得」や「集荷量の増加」を促進するため、荷主(企業)への助成事業等により「国際貿易の促進」や「地域経済の発展」につなげていきます。

さらに、国と連携した「岸壁の延伸」、「ふ頭用地の整備」に加え、「ガントリークレーンの新規整備」に令和6年度より着手しました。本事業により、国際フィーダー便の増便や、コンテナ船とクルーズ船の同時着岸が容易となるため、受入環境の充実により、物流効率化に伴う地域経済の成長など、「ストック効果の最大化」に努めています。



沖洲(外)地区及び津田地区の港湾整備

● マリンピア沖洲第二期事業

第二期事業は、既に完成している第一期事業の周辺に、徳島南部自動車道の用地、臨港道路等の整備を図り、さらなる物流の効率化を目指すとともに、県民の憩いの場となる緑地を整備します。

● 津田地区活性化整備事業

平成27年度、津田地区にハーフ・インターチェンジの設置が認められたことを契機に、「徳島小松島港津田地区活性化計画」を策定し、平成29年度から令和2年度までに第3水面貯木場を埋立、令和3年度に企業用地を分譲開始、令和4年度に完売しています。

また、令和2年度、津田地区にフル・インターチェンジの連結が認められたことなどを反映させた、「徳島小松島港津田地区活性化推進計画」を策定し、令和5年度から第2水面貯木場の埋立を実施しています。

